



アジア高校生架け橋プロジェクト+ 国際交流キャンプ

本当の友達になるには 世界の架け橋となる次世代リーダーたちの熱き想い



文部科学省補助事業「アジア高校生架け橋プロジェクト+」国際交流キャンプは、12月13日(土)～12月16日(火)3泊4日の日程で、東京にて開催されました。日本の歴史、文化や経済、地球温暖化や国際関係などについて、この事業で来日して日本で約5か月間の滞在を終える25カ国100人の留学生と37都道府県82校の日本人高校生が共に特定のテーマについて議論を深め、世界で解決しなければならない答えのない紛争や地球温暖化問題等を議論することが目的です。また、この国際交流キャンプを通して、留学生と日本の高校生が互いに架け橋となり、地球上で起きている課題を解決するような次世代リーダーに

なるように育成することを目指しています。本校からは代表として、1年6組塩田柚季さんが参加してきました。

アジア高校生架け橋プロジェクト+国際交流キャンプに参加して

1年6組 塩田 柚季

私は今回、『アジア高校生架け橋プロジェクト+国際交流キャンプ』に参加しました。ディスカッション最終日には、日本の高校生59名が全員の前で、将来の夢について、1人30秒ずつ宣言をしました。ほとんどの人が涙をこぼしながらの宣言の時間でした。私の夢は、英語だけではなく、他の言語も話せるようになります。それは、他言語を母国語として話している相手に対して憧れがあり、また直接コミュニケーションをとれる相手が多くなると思ったからです。多くの言語を使うことへの憧れとコミュニケーションができる範囲や規模の拡大が、私が夢を叶えたいという主な理由でした。

そんな中、今回の国際交流プロジェクトを通して、新しく気づいたことがあります。それは、ある日本の高校生が「出身国や話す言語が違うだけで、同じ出身国や言語の人よりは本当の友達にはなれない」という言葉がきっかけでした。相手の母国語または共通の言語で会話をするのは、相手の心の深くまで入り込んで、本当の友達になるための手段だということに気づきました。私は今まで、自分の将来の夢を人前で発表しようと思ったことやそのような機会がなく、自分が抱く将来の夢に不安をかかえたまま行動に移すことができませんでした。それは、自分の将来の夢が職業ではなく、人生の目標に近かったからです。しかし、他の日本の高校生がそれぞれ異なる夢に向かって、実際にプロジェクトを立ち上げている姿を見て、自分の将来の夢は職業にも生かせることがわかり、大きかった不安はほとんどなくなりました。新しい私の将来の夢は、英語だけではなく、多くの言語を使って、どんな形であれ世界中の人々を助け、幸せにすることです。

この3泊4日を通して、多くの刺激や新しい視点を得ることができました。「失敗したらどうしよう」という不安を捨てて、何事にもまずは挑戦してみることを大切にして、行動をしてきたつもりです。失敗した経験も私の強みになっているように、日に日に感じます。これからも、他言語習得と並行しつつ、自分の可能性を広げられるように多くのことに臆さず挑戦していきたいです。

